

公益社団法人 私立大学情報教育協会

2019 年度第 1 回

経営・経済・会計・心理・被服・物理・化学・機械・建築学・経営工学
数学・電気通信・土木・生物・美術デザイングループ
分野連携合同会議議事概要

- I. 日時 : 令和元年 8 月 24 日 (土) 10:30~12:30
II. 場所 : 私学会館(アルカディア市ヶ谷) 6階 霧島
東京都千代田区九段北 4 丁目 2-25 (TEL: 03-3261-9921)
III. 出席者

角田担当理事兼総括委員長・田辺委員・高野委員(機械工学分野)、寺田委員長・穴田委員(物理学分野)、及川委員長・小林委員・庄野委員(化学分野)、関口委員長(建築学分野)、井上委員長・水野委員(経営工学分野)、宮林委員・伊藤委員(経営学分野)、林委員長・渡邊委員・山田委員・中嶋委員・山崎委員(経済学分野)、岸田委員長・松本委員・河崎委員・金川委員・木本委員(会計学分野)、木村委員長・松田委員(心理学分野)、小原委員・石原委員(被服学分野)、井川委員・山崎委員・西委員(数学分野)、鈴木委員・小林委員(電気通信分野)、窪田委員(土木工学分野)、佐野委員(生物学分野)、井澤委員(美術デザイン分野)、事務局: 井端事務局長、中村職員

IV. 議事の経過

角田担当理事より挨拶の後、15 分野の出席委員の紹介が行われ、角田総括委員長が議長となり、報告事項に入った。

(1) 報告事項

1. 分野連携による対話集会の進め方について

事務局より、最初に資料①の平成 30 年度事業報告を抜粋した「事業の実施状況」に基づき、分野連携による対話集会の実施結果について、概ね次の通りの報告が行われた。

- ① アクティブ・ラーニングで目指す能力は、文・理・医療系グループでは「知識の定着・活用」から「問題発見・解決力、知識を組み合わせる力、発想・創造力、実践力」にシフトされ、被服・美術デザイングループでは「独創力・発信力」にシフトしていることが確認された。
- ② アクティブ・ラーニングで ICT を使用する教員の割合は 3 割から 5 割程度で、使用していない教員が多いことが確認された。他方、答えが定まらない SDGs など課題解決の PBL が不可避になると、ネット上で多分野の学生や地域社会などと意見交流・考察する学びが日常化され、ICT を活用しない授業は考えられなくなることから、教員の意識変革が課題であることについて認識を共有した。
- ③ 問題発見・解決型授業で留意すべき視点は、「答えの定まらない社会的な課題を取り上げる」、「時間や場所を越えて他大学・地域社会の意見を取り入れ、新しい知を創り上げる学びのプラットフォームをネット上に構築する」、「教員間及び教職員間との連携が必須」を参加者の 7~8 割で確認した。
- ④ 「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」の方向性について、新たな価値の創造に関わるなど仕事の仕方や質が変化することから、実践知を組み入れた教育の必要性を認識し、他大学、産業界、地域と連携して多様な知を組み合わせる教育のオープンイノベーションが課題となることを確認した。
- ⑤ オープンな教育改善の仕組みとしては、ネット上にプラットフォーム構築の必要性を参加者の 7 割から 8 割で確認し、教員の他、職員、地域団体、学生、企業、有識者と意見交流の必要性を確認した。
- ⑥ ビデオ試問の外部評価モデルの提案は、論理の展開力、批判的な思考力、合理的判断力、科学的思考力、論旨明確な表現力の振り返りを学年進行の中で訓練する必要性について、どのグループも反対はなく、半数近くの賛同を確認した。今後、ビデオ試問の適用可能性について分野ごとに検討することにした。

次いで、資料②の「2019 年度事業計画書」で 6 グループの分野連携から 3 グループの分野連携に再編成した経緯について説明の後、資料③の「2019 年度の分野連携対話集会の進め方(メモ)」に沿って、概ね次の

ような説明が行われ、質疑の後、認識を共有した。

① 今年度対話集会の開催方針は、一つはICTの活用が自己目的化されていることから、地域社会や持続可能な開発目標(SDGs)の課題解決を訓練する問題発見・解決型教育等(PBL)の研究をICTの活用を含めて行う。二つは学部又は大学を越えてネット上で学外有識者の知見に触れ、チームで知見を組み合わせ論理的・合理的思考力、批判的な思考力を訓練する分野横断フォーラム型授業モデルの可能性を研究する。三つはネット上で多面的・多角的に議論・考察し、問題点の整理、課題の発見、問題解決策を意見交換し、発表・評価などを実現する学びのプラットフォームの在り方を研究する。四つは、分野を横断した小委員会を構成してビデオ試問による外部評価モデルの仕組みを研究し、その検討結果を踏まえて具体的な仕組みを探求することにした。

② 対話集会の進め方は、話題提供2時間、意見交流2時間程度とする。話題提供の内容は、地域課題又はSDGsを題材にICTを活用した取組みなどを新たに加え、以下のような観点から選定することが確認された。

※ 地域課題又はSDGsを題材にICTを活用した問題発見・解決力を高めるPBLの取組み又は提案

※ データサイエンスを利用した価値創造PBLの取組み

※ チーム学修による議論・考察をICT学修支援システムで実現するノウハウ

※ ICTを活用した授業改善の取組み又は授業改善の提案

※ 反転授業の導入と授業運営の留意点及び課題

※ ICTを活用した外国大学との遠隔授業の取組み又は提案

※ モバイル・SNS・クラウドを活用した授業改善の取組み又は提案

※ eシラバス、eポートフォリオなどを活用した授業の可視化、学修成果の可視化の取組み

③ 意見交流のテーマについては、以下の4点の方向で検討を進めることが提案された。なお、意見交流の資料とするために参加申し込み時にテーマに関するアンケートを行い、参加者の意思を把握・整理することが確認された。

※ 地域課題とSDGs(持続可能な開発目標)の課題解決を訓練するPBLの必要性と教育方法・評価

※ 知の創造を目指すICT活用の分野横断フォーラム型授業の進め方と課題

※ 学びのプラットフォームづくりとファシリテータによる支援体制

※ ビデオ試問による外部評価モデルの仕組みと実現に向けた準備・課題

④ 合同会議の検討スケジュールについては、9月下旬、10月中・下旬の2回を予定し、開催要項の決定、意見交流の進め方の決定、フォーラム型実験小委員会でのICTプラットフォームを活用した授業運営マニュアル、外部評価モデル小委員会によるビデオ試問による仕組みの検討状況を確認することにした。

(2) 検討事項

1. 話題提供候補の可能性については、事前に委員から提出の7件について、提案者から説明の後、各分野及び関連分野で検討を行った。それを踏まえて、次回は、「教育改善の目的・内容、「ICTを活用した教育効果」などを明確にした上で、話題提供を決定することにした。

2. 意見交流のテーマについては、概ね事務局が提案した観点で検討を進めることになり、次回にアンケート内容の検討と併せて考察することにした。

3. 対話集会の日時と会場は、多くの分野が連携した対話集会となることから大教室での開催を念頭に12月21日(土)又は22日(日)を候補日とし、法政大学の会場で検討いただくことにした。

4. 次回は、10月29日(火)10時より、開催要項、アンケート、役割分担などを検討することにした。